

平成30年度
事業評価報告書

平成30年11月
杵築市行政改革推進委員会

目 次

はじめに	1
1. 事業の外部評価（外部評価）について	2
(1) 行政改革推進委員会と事業評価の位置付け	
(2) 評価対象の事業	
(3) 評価にあたっての基本姿勢	
2. 見直しの方針について	2
3. 事業評価の結果	3
(1) 全体概要	
(2) 個別の事業の評価結果	

はじめに

日本経済は、緩やかな回復基調が続いています。海外経済が緩やかに回復する中で、日本の輸出や生産は持ち直しが続き、企業収益は過去 最高となり、雇用・所得環境も改善しています。また、個人消費や民間企業設備投資など国内需要も、持ち直しており、好循環が進展しています。

しかしながら、杵築市においては、景気動向について若干の回復基調が見られるも十分な回復には至っておらず、また人口増や企業誘致等の期待はできない状態であることから、現状では、税収の伸びは見込めない状況であるといわざるをえません。

杵築市における平成 29 年度決算状況をみると、実質収支、実質単年度収支、経常収支比率、実質公債費比率等の各種財政指標は、それぞれ前年度から悪化、特に経常収支比率では、前年度より 2.1 ポイント悪化した 98.5%となりました。

また、平成 30 年度収支予測では、税収は微増か横ばいで推移するものの、地方交付税は合併算定替の縮減等により、かなりの減額が予想されています。

これに対し歳出では、扶助費、投資及び出資金、繰出金、普通建設事業費、災害復旧事業費で増加すると予測され、この一般財源を補うため、財政調整基金を 13 億円取り崩す予定です。この取崩により最終的な決算は黒字を確保できるとしていますが、財政指標の悪化、積立金現在高が減少となる見込です。また、地方債現在高はさらに増加し、過去最大を更新すると予想されています。

今後大変厳しい状況が予想されていることから、行政改革推進委員会では、第 3 次行政改革大綱の基本方針に基づく取組項目の「事業評価の実施」に基づき「第 2 次杵築市総合計画実施計画書【事業計画(平成 30～32 年度)】杵築市平成 30 年度版」に掲載された事業について、事業効果や必要性を検証し、評価を行いました。

ここに、委員会の意見を付して市長に報告します。

杵築市におかれましては、この結果を尊重し、今後の予算編成に反映されることを要望します。

平成 30 年 11 月

杵築市行政改革推進委員会	委員長	阿部博光
	副委員長	西紀子
	委員	詫摩賢治
	委員	手嶋徳幸
	委員	松縄京子

1. 事業の外部評価について

(1) 行政改革推進委員会と事業評価の位置付け

当委員会の役割は、行政改革の推進について、必要な事項を調査審議するものである。

事業評価は、杵築市の行政改革の指針となる「杵築市行財政改革大綱【第3次行政改革大綱】」の実施計画である「第3次行政改革大綱実施計画」の取組項目の一つであり、事業評価シートに基づいて行う。

まず、一次評価として、各事業を担当している課長等が、事業の内容、効果、目標、実績等について評価する。

次に、二次評価として、行政改革担当である総務課長が事業の内容、効果、目標、実績等について評価する。

そして、外部評価として、行政以外の構成員による第三者機関である当委員会が、外部の視点から評価を行う。

(2) 評価対象の事業

評価の対象とする事業は、次に掲げるものとした。

事業費合計 7,953,487千円 153件

(3) 評価にあたっての基本姿勢

事業の実施については、今後予想される杵築市の厳しい財政状況を鑑みれば、正にゼロベースから事業全般の見直しを行い、真に必要な事業に絞ることが急務である。

しかしながら、当委員会は政策決定機関ではなく、事業の実施に関する決定は、最終的には市長の判断と市議会での予算審議に委ねられる。

そこで、当委員会は、第三者の立場から、客観的な視点をもって厳しく事業について評価を行い、その結果を市長に報告する。

2. 見直しの方針について

(※1)

一次評価、二次評価、外部評価においては、事業評価シートに基づき評価を行った。

(※1)

- ・事業評価シート：事業の進捗管理と評価をするため、事業内容、効果、課題、目標、実績、改善経過等を挙げ、そこから内容の見直しや今後の展開など事業の点検を行うシート。

(※2)

「見直しの方針」については、“廃止”“内容見直し”“縮小”“継続”“拡大”の5つの選択肢によって、方針を示すこととし、「総合コメント」については、

検討結果を具体的に記述した。なお、「見直しの方針」は、将来を視野に入れ、今後どうあるべきかという判断の下で行った。

また、個別の「見直しの方針」、「総合コメント」については、別冊「事業の評価コメント一覧表」に記述することとした。

(※2)

◇ “廃止”

事業そのものの意義が低下しているもの。目的から見て成果が十分に期待できないものについて、事業の廃止が妥当と判断されたもの。

◇ “内容見直し”

事業の必要性は認めるが、事業の内容や予算配分などの見直しを行うことで、事業費の変更が必要なもの。

◇ “縮小”

事業の必要性や内容等は認めるが、事業費を引き下げていく必要があるもの。

◇ “継続”

事業費に見合う成果が期待でき、現状どおり事業を継続することが妥当であると判断したもの。

◇ “拡大”

事業をさらに展開することが有効であると認められるもののうち、事業費を引き上げていくことで、さらに効果が期待できるもの。

3. 事業評価の結果

(1) 全体概要

事業評価シートでの評価を通して、問題点が明らかになったので、事業の課題について述べていく。

- ① 限られた財源の中で新規事業を行う場合、むやみに地方債に頼るのではなく、まず補助金等の財源の確保を念頭におき、今後予想される厳しい財政状況を考慮し、市の財政負担をできるだけ減らす努力が必要である。また、経費に余分なものがないか、徹底的に見直しを行う必要がある。当委員会での検討でも、事業費を減らす余地のある内容がいくつか見受けられた。
- ② 個別に事業を見直すと、前年度に比べ減らすか増やすかという議論になりがちで、削減することが難しいので、総額で減らす努力が必要である。個別に見ていくと、それぞれ必要な事業と思われ、大半が継続という判断になりがちだが、全体的なバランスや政策により、重点事業を決め、事業の取捨選択を総合的に判断する必要がある。
- ③ 事業はやらないよりはやった方がいいのはもちろんであるし、きめ細

かいサービスや市民の事業への関心を引くための付加価値をつけることも分かるが、それではこの財政難を乗り切ることができない。今後は必要最小限度の事業費で事業運営をしていく覚悟が職員全員に必要である。費用対効果、重点施策か等、総合的に厳しく判断し、メリハリのある事業展開を行わなければならない。人員も財源も限りがあるため、効果的に真に必要な事業に力を注ぎ、思い切って、事業の廃止を検討する段階に来ている。

- ④ このまま予算規模が増大していかないように注意しなければならない。また、全体的にシーリングをかけ、さらなる予算の削減に努めるべきである。
- ⑤ 今後の厳しい市の財政状況を周知徹底し、全ての職員が危機意識を共有して事業遂行にあたらなければならない。併せて、事業遂行のあらゆる局面で危機管理が十分に機能し、事業実施途上であれ、縮小・凍結等が果敢に実行されなければならない。

(2) 個別の事業評価結果

一次評価（担当課長等）、二次評価（総務課長）、外部評価（当委員会評価）の結果は、下表のとおりである。

当委員会における外部評価は、153件の事業のうち、“継続”が142件で最も多く、次いで、“内容見直し”8件、“拡大”1件、“縮小”1件、“廃止”1件となった。

〔見直しの方針別評価結果〕

見直しの方針	一次評価	二次評価	外部評価
	担当課長等	総務課長	行革委員会
	件数	件数	件数
廃止	0	2	1
内容見直し	3	14	8
縮小	1	1	1
継続	137	129	142
拡大	12	7	1
合計	153	153	153

※個別の事業に関する評価とコメントは、別冊「事業評価コメント一覧表」に示している。